

令和 6 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100057	事業の開始年月日	平成18年8月1日
		指定年月日	令和6年8月1日
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート川崎		
所在地	(〒212-0053) 川崎市幸区下平間357-2		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年12月22日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと移行後、徐々にボランティア団体の受け入れ等を再開した所で、今年度も室内での活動が中心となりました。昨年同様に館内の装飾や月一での行事に力を入れ、少しでもお客様に楽しんで頂けるよう取り組みました。

館内装飾は各階で四季の花や紅葉、各月の行事に合わせた装飾を職員の方で考えながらお客様と行っています。2階のエントランスの飾りは職員の方が、季節に応じたものを考えて掲示しております。

行事では納涼祭や楽しんで頂けるような輪投げや射的のゲームを企画したり、昨年より好評だった喫茶店行事を行い、職員が喫茶店の店員の格好をして喫茶店メニューを提供するなど行っております。ホームの様子をブログに掲載したり、不定期ではありますが、行事の様子などを写真に収め運営進会議の資料に写真を添えて活動報告を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年1月29日	評価機関 評価決定日	令和7年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇介護理念を基に安心な介護

・グループ介護理念「グループの力を結集して」「ありがとうの気持ちを忘れずに」「ルールを守り」「出合いを大切に」「エネルギーに活動し」「和やかなケアをする」を事業所内に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。
・職員は四季折々の花を飾り(年間5~6回)、行事に合わせて利用者と一緒に室内装飾に取り組んでいる。コロナ禍の中、事業所内で好評の喫茶店行事では、利用者が喫茶店の雰囲気を楽しむ、飲食を楽しめるよう取り組んでいる。

◇健康維持の支援

・協力医療機関と薬局との密な連携で、利用者の健康管理を行い、利用者が明るく穏やかな生活ができるように、健康維持に取り組んでいる。

【事業所が工夫している点】

◇年間の行事の工夫

・年間行事に職員の担当を決め、納涼祭、輪投げ、射的のゲーム、喫茶店等の企画を行い、利用者が楽しめるように工夫を凝らしている。この様子はブログや通信で家族に伝えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	ユニット1 (2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、社是を掲示していません。お客様、家族、地域に貢献することを念頭に、運営していきたいと考えています。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の社是「お客様・ご家族・地域の健やかな暮らしに貢献する」を事務室に掲示し、職員は出勤時に確認している。 ・社是に基づいて実践出来るように、毎月ユニット会議でサービス指針の冊子の読み合わせをしている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にてご家族、協力医療機関、地域包括等へ活動状況の報告を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入し、回覧板から地域のイベント情報を得ている。 ・年に2～3回、地元ボランティアによるウクレレ演奏と、フラダンスを楽しんでいる。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以降地域貢献と行ける活動は行えておりませんが、ホームへ見学されるご家族様への介護相談を中心に、ご入居が叶わない場合でも、他のサービスや現時点でのご自宅でのケアについて微力ながらご提案などをさせて頂いております。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、事業所の報告を行っています。また助言やご指導を頂きサービス向上に生かしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月ごとに。区の高齢障害課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、薬剤師、看護師、家族が参加し開催している。 ・事業所の状況や研修等の報告後、参加者より具体的な助言や指導を受けている。家族からは職員の名札についての要望があり、改善した。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は確認を行うよう努めております。 現在は運営推進会議に区役所の高齢障害課のご担当者様をお招きし助言を頂いております。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢福祉課とは、介護保険手続きの代行時に電話連絡し意見交換している。高齢福祉課職員は運営推進会議に出席して事業所の状況を把握し、協力関係を築いている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回職員の個別研修、採用時の研修、2018年度より常勤会議にて身体的拘束排除の会議を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 委員会の実施。	・身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、意見交換した結果を職員に周知している。 ・職員は年2回、オンライン研修で身体拘束禁止について学んでいる。 ・不適切な言動があればその場で注意し合える環境になっている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を、職員の個別研修で行っています。虐待につながらないように、職員のストレスケアにも留意した運営を行っています。 委員会の実施。	・虐待防止委員会を3か月に1回開催し、意見交換した内容を職員に周知している。 ・毎年1回、虐待防止自己チェックシートを活用し自己点検を行っている。 ・毎月のユニット会議で虐待防止について話し合い情報を共有をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンデマンド研修や研修資料を用い研修実施しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約及び解約時には書面を用いて説明を行っています。また介護保険法の改定時期や、加算取得時にも既存のお客様への説明をし、同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートは毎年ではございませんが、実施しております。ご家族様よりご要望があった際は、職員での共有または早期改善をし、運営に反映しています。	・日常の会話などから利用者の要望を把握し散歩や食事などの支援に反映している。 ・家族の来訪時、運営推進会議、電話連絡等により家族の意見を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議、ユニット会議等の会議や、個別の定期面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けています。また日常的な場面でも相談しやすい場を作るよう心掛けております。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員の意見を参考にして事業所運営を行っている。 ・職員との定期面談日に加え、日常的にいつでも相談できるよう管理者から声掛けをしている。 ・職員から朝食の見直しの提案があり運営に反映した。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場環境についての把握を行っています。また職員個々の働き方についても理解し、都度不明点があれば本社と確認し本人と話し合い対応を行っています。普段より職員が相談しやすいよう心掛けております。	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則により、給与、労働時間等の管理を適正に行っている。 ・毎月、職員の予定を聞いてシフトを組んでいる。 ・管理者は心を開いて接し、職員にストレスがたまらない様配慮している。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員育成プログラム（冊子）、複数の拠点と合同の研修など、法人全体で取り組んでいます。また社内サービス指針の共有と周知を行っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は研修を研修計画に基づき受講している。ユニット会議でサービス指針冊子を題材に学び、目標をホワイトボードに記入しケアに反映している。 ・認知症基礎研修、認知症介護実践者研修の資格取得費用を法人が全額負担し取得を奨励している。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は連絡会の参加などは実施していません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントを大切にしています。本人、家族の話聞き、小まめに連絡を取り合うことで安心して利用していただくように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様、ご家族の話を聞く時間を多く取り、ニーズを聞きだすように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただく前に、ご本人様とご家族様のご要望を聞き出し、双方のニーズに適応できる環境設定に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の心身の状況等からを、お客様との交流や日常生活上の家事等を職員と共に行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態を定期的にご報告し、常時協力し合える環境作りを築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会を多く作っていただいています。 またご家族様のご許可頂いた方の場合に限り、ご友人様などの面会も対応しております。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人間関係が途切れないよう親戚や友人の面会、知人からの電話の取次ぎなどを支援している。 ・知人の面会は、家族の了解を得てから面会してもらっている。面会は居室かエントランスを利用している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で行える作業（洗濯物畳や食器拭き等）は、職員見守りのもと、実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういったケースはありませんが、相談があれば対応していきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様ご本人やご自分の意志が伝えられない方のご家族様に相談しながらご本人様本位の生活が出来るようヒアリングを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いや意向の把握は、入居時のアセスメントや家族から把握している。 ・職員は常に傾聴に努め、利用者の様子を観察しながら利用者の意向を把握するようにしている。得た情報は申し送りノートにて職員間で共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各お客様の生活歴や生活環境を把握し、可能な限り近づけられるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の些細な変化も共有できるよう日々の申し送り等で共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、主治医又は看護師、ご家族等とカンファレンスを実施し、介護計画に活かしています。	・ユニット会議で毎月話し合い、モニタリングは3か月ごとに行い、カンファレンスで課題・目標を介護計画に反映している。 ・介護計画は短期計画1年、長期計画2年としているが体調に変化があれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場職員には、様子や変化の記録を個々に取ってもらっています。また、申し送りで情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、ご家族と日々接する中でニーズをつかみ、サービスの提案ができるようにつとめています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の方に来て頂き、お客様のニーズに合わせて、カラーや毎月のカットなどを実施しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と提携し、さまざまなことを相談できる関係であり、看護師とは24時間連絡がとれる体制にあります。	・利用者・家族が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。現在は全員が協力医療機関をかかりつけ医として月に2回の訪問診療を受けている。 ・専門医の通院は家族同行受診となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様を医療的な面から見てもらっています。介護職員の疑問、相談できる関係を築けています。バイタルや体調面で気になる事があれば適宜報告を行うよう心掛けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、担当医と密に連絡を取り、退院に際してのムンテラでは、その後の支援に反映させています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医または看護師、ご家族と密に連絡を取り、悔いなく最期を迎えて頂けるよう取り組んでいます。また今年度より看取り研修を導入しており、負担となる職員へのメンタルケア対応も少しずつ努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・状態の変化に応じ、家族、利用者の要望を踏まえ医師、関係者と何度も話し合い、利用者の望む終末期が迎えられように取り組んでいる。 ・重度・終末期ケアマニュアルや看取り研修で学び、最期の日まで寄り添うケアをしている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての個別研修を実施し、実践力を身に付けています。また、各フロアに事故発生時のフローチャートを掲載しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、館内にハザードマップを掲載し、迅速な対応が出来るように準備をしています。また水害時の避難についても訓練を行っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回利用者も参加して夜間想定を含む避難訓練を行っている。 ・水害エリアにあるため3階への垂直避難訓練をしている。 ・感染症、非常災害の業務継続計画を策定し研修や訓練を行っている。 ・備蓄品3日分リスト化している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へプライバシー保護、職業倫理、接遇等研修を実施し、日頃から不適切なケアが無いよう啓蒙しています。	・職員はプライバシー保護・倫理及び法令遵守に関する研修を受講している。 ・職員は、利用者これからすることを丁寧な言葉かけをし、理解を得てから行っている。人格意識を持った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望を拝聴し、現実に沿った提案をして、本人に選んでいただけるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせた支援をするよう指導しています。また、個々の体調管理や体調の変化に応じたケアも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容介助や着脱介助時は、服を整えたり、ご本人が出来ない場合などは介助にて行わせて頂いております。お客様により、鏡台や化粧品などを持ち込んで頂き、ご入居後も実施して頂いております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各お客様に合わせた食事形態での提供を行っています。また、配膳や盛り付け等は行えるお客様と共同で実施しています。	・フロアに本日のメニューをカラーで掲示し食事への関心や楽しみを引き出す工夫をしている。 ・利用者はお茶をいれ、テーブル拭き、お盆拭きの手伝いをしている。 ・誕生日会の手作りケーキの上にフルーツを飾る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、一定量接種出来るよう努めています。また食事量が不安定なお客様は医師に報告し、補助食品などの処方などのご相談をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助で残物がないようにケアしています。また口腔衛生加算を取得し、歯科衛生士と情報交換、指導、助言を頂き継続的な支援を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りはトイレで排泄していただくケアを行っています。状況によっては居室内にポータブルトイレを設置して対応しています。特に夜間などはパット交換などの時間間隔を職員間で共有して対応しております。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレでの排泄を基本と考えている。立位が不安定でも職員が2人介助でトイレで排泄をしている。 ・居室でポータブルトイレを利用する利用者もいる。 ・排泄の自立度や排泄パターンに応じた支援をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分を適切に摂取し、運動により腸を動かすことを基本としています。解消されない場合は処方された薬の服薬によって支援をします。また自然排便を促すよう牛乳やバナナの提供を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援を行い、皮膚状態を良好に保つようにはしています。また、理美容にてカットをされたお客様はカット後、入浴をして頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2回の入浴を基本に利用者の身体状況に応じ、シャワー浴などの対応をしている。 ・入浴を拒む利用者には意向を確認しながら曜日を変更している。 ・1対1の空間で会話を楽しんだり、くつろいだ時間を過ごしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペース、睡眠サイクルを把握して快適に眠っていただくように支援しています。 また日中に活動して頂く事を増やし、夜寝て頂けるようお声かけやレクリエーションを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更時には特に、目的、作用について職員に伝え、変化あれば報告を頂いています。また往診時は薬剤師も同行しており、相談体制が確立されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や散歩は毎日実施できるよう心掛けています。また、月1回行事を実施し、両ユニットの交流を図る等の取り組みもしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADL維持のためにも、戸外への外出は意識していますが、現在、新型コロナウイルスの影響により、戸外への外出が厳しい状況となっています。ホーム周辺の散歩や、ベランダ等での外気浴を中心に行っております。	・1階のエントランスのベンチで外気浴をしている。施設周辺を散歩するときもある。 ・家族の協力で、車椅子での散歩や通院した際に外食したり、誕生日には家族と外食をする利用者もいる。	家族の協力で外出などを行っているが、散歩を希望する利用者が散歩を楽しめる支援が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事務所にて行っております。 コロナ禍以前では買い物を希望された場合は、職員付き添いのもと、近隣のスーパーへ買い物に行っていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合は、ご家族様に確認をして対応をしております。手紙についてもご希望があれば同様に実施致します。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をこころがけ、フロアの装飾には季節ごとのテーマをもって、お客様と作成した作品等を飾っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、ほとんどの利用者は体操やパズルなどをして、フロアでコミュニケーションをとっている。 ・複数のソファを配置し日光浴をしたり、一人でくつろいでいる。 ・職員が掃除をしているが、利用者が手伝ってくれる時もある。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアに複数のソファを配置して、お客様の気分に沿って過ごしていただくようになっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自宅で使用されていた物をそのまま使用していただくなどして、安心や寛ぎやすい空間作りをしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンと照明は事業所が設置している。家族と相談しながら思い出のある使い慣れた家具や家族の写真などを飾り、今まで暮らしていた状態に近い配置にしている。 ・環境の変化を少なくし、安心して過ごせるようにしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本として、建物の設備はお客様が使用しやすいところに位置しています。		

事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎
ユニット名	ユニット2(3階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、社是を掲示しています。お客様、家族、地域に貢献することを念頭に、運営していきたいと考えています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にてご家族、協力医療機関、地域包括等へ活動状況の報告を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以降地域貢献と行ける活動は行えておりませんが、ホームへ見学されるご家族様への介護相談を中心に、ご入居が叶わない場合でも、他のサービスや現時点でのご自宅でのケアについて微力ながらご提案などをさせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、事業所の報告を行っています。また助言やご指導を頂きサービス向上に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は確認を行うよう努めております。現在は運営推進会議に区役所の高齢障害課のご担当者様をお招きし助言を頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回職員の個別研修、採用時の研修、2018年度より常勤会議にて身体的拘束排除の会議を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 委員会の実施。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を、職員の個別研修で行っています。虐待につながらないよう、職員のストレスケアにも留意した運営を行っています。 委員会の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンデマンド研修や研修資料を用い研修実施しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約及び解約時には書面を用いて説明を行っています。また介護保険法の改定時期や、加算取得時にも既存のお客様への説明をし、同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートは毎年ではございませんが、実施しております。ご家族様よりご要望があった際は、職員での共有または早期改善をし、運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議、ユニット会議等の会議や、個別の定期面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けています。また日常的な場面でも相談しやすい場を作るよう心掛けております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場環境についての把握を行っています。また職員個々の働き方についても理解し、都度不明点があれば本社と確認し本人と話し合い対応を行っています。普段より職員が相談しやすいよう心掛けております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員育成プログラム（冊子）、複数の拠点と合同の研修など、法人全体で取り組んでいます。また社内サービス指針の共有と周知を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は連絡会の参加などは実施していません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントを大切にしています。本人、家族の話を聞き、小まめに連絡を取り合うことで安心して利用していただくように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様、ご家族の話を聞く時間を多く取り、ニーズを聞きだすように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただく前に、ご本人様とご家族様のご要望を聞き出し、双方のニーズに適応できる環境設定に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の心身の状況等からを、お客様との交流や日常生活上の家事等を職員と共に行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態を定期的にご報告し、常時協力し合える環境作りを築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会を多く作っていただいています。 またご家族様のご許可頂いた方の場合に限り、ご友人様などの面会も対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で行える作業（洗濯物畳や食器拭き等）は、職員見守りのもと、実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういったケースはありませんが、相談があれば対応していきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様ご本人やご自分の意志が伝えられない方のご場合はご家族様に相談しながらご本人様本位の生活が出来るようヒアリングを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各お客様の生活歴や生活環境を把握し、可能な限り近づけられるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の些細な変化も共有できるよう日々の申し送り等で共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、主治医又は看護師、ご家族等とカンファレンスを実施し、介護計画に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場職員には、様子や変化の記録を個々に取ってもらっています。また、申し送りで情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、ご家族と日々接する中でニーズをつかみ、サービスの提案ができるようにつとめています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の方に来て頂き、お客様のニーズに合わせて、カラーや毎月のカットなどを実施しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と提携し、さまざまなことを相談できる関係であり、看護師とは24時間連絡がとれる体制にあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様を医療的な面から見てもらっています。介護職員の疑問、相談できる関係を築けています。バイタルや体調面で気になる事があれば適宜報告を行うよう心掛けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、担当医と密に連絡を取り、退院に際してのムンテラでは、その後の支援に反映させています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医または看護師、ご家族と密に連絡を取り、悔いなく最期を迎えて頂けるよう取り組んでいます。また今年度より看取り研修を導入しており、負担となる職員へのメンタルケア対応も少しずつ努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての個別研修を実施し、実践力を身に付けています。また、各フロアに事故発生時のフローチャートを掲載しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、館内にハザードマップを掲載し、迅速な対応が出来るように準備をしています。また水害時の避難についても訓練を行っております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へプライバシー保護、職業倫理、接遇等研修を実施し、日頃から不適切なケアが無いよう啓蒙しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望を拝聴し、現実に沿った提案をして、本人に選んでいただけるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせた支援をするよう指導しています。また、個々の体調管理や体調の変化に応じたケアも行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容介助や着脱介助時は、服を整えたり、ご本人が出来ない場合などは介助にて行わせて頂いております。お客様により、鏡台や化粧品などを持ち込んで頂き、ご入居後も実施して頂いております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各お客様に合わせた食事形態での提供を行っています。また、配膳や盛り付け等は行えるお客様と共同で実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、一定量接種出来るよう努めています。また食事量が不安定なお客様は医師に報告し、補助食品などの処方などのご相談をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助で残物がないようにケアしています。また口腔衛生加算を取得し、歯科衛生士と情報交換、指導、助言を頂き継続的な支援を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りはトイレで排泄していただくケアを行っています。状況によっては居室内にポータブルトイレを設置して対応しています。特に夜間などはパット交換などの時間間隔を職員間で共有して対応しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分を適切に摂取し、運動により腸を動かすことを基本としています。解消されない場合は処方された薬の服薬によって支援をします。また自然排便を促すよう牛乳やバナナの提供を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援を行い、皮膚状態を良好に保つようにはしています。また、理美容にてカットをされたお客様はカット後、入浴をして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペース、睡眠サイクルを把握して快適に眠っていただくように支援しています。 また日中に活動して頂く事を増やし、夜寝て頂けるようお声かけやレクリエーションを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方の変更時には特に、目的、作用について職員に伝え、変化あれば報告を頂いています。また往診時は薬剤師も同行しており、相談体制が確立されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や散歩は毎日実施できるよう心掛けています。また、月1回行事を実施し、両ユニットの交流を図る等の取り組みもしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADL維持のためにも、戸外への外出は意識していますが、現在、新型コロナウイルスの影響により、戸外への外出が厳しい状況となっています。ホーム周辺の散歩や、ベランダ等での外気浴を中心に行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事務所にて行っております。 コロナ禍以前では買い物を希望された場合は、職員付き添いのもと、近隣のスーパーへ買い物に行っていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合は、ご家族様に確認をして対応をしております。手紙についてもご希望があれば同様に実施致します。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をこころがけ、フロアの装飾には季節ごとのテーマをもって、お客様と作成した作品等を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアに複数のソファを配置して、お客様の気分に沿って過ごしていただくようになっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自宅で使用されていた物をそのまま使用していただくなどして、安心や寛ぎやすい空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本として、建物の設備はお客様が使用しやすいところに位置しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ガーデンコート川崎

作成日 令和7年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	21	家族の協力で外出などを行っているが、散歩を希望する利用者が散歩を楽しめる支援が期待されます。	散歩又は外気浴の機会を週1回確保し、ご利用者様の気分転換を図る事を継続する。	採用の強化や派遣職員の導入などにて職員の雇用を安定させ、お客様が散歩に行ける時間と人員の確保を行う。 高齢に伴い退職や時間数減の職員もいる為、時給増での採用なども必要となる為長期的に取り組む。	3ヶ月～6ヶ月程度
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。